

製鉄・製鋼・圧延業における墜落・転落災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	17~18	第5工場、Gクラッシャーで、フレコンの3段積み一人でブルーシートを掛けようとして、シートの片側を持って、フレコン上に登った。シートを掛けようとした時、バランスを崩して転落した。暫くして起き上がり左手首に痛みを感じ動かせなかった。ヘルメットを被っていたが頭の右側上が腫れ、右肩、右手首、右膝にも痛みがあり受診した。	58	50~99
4	13~14	第2製鋼工場真空脱ガス装置の点検終了後、クレーンに移動中、渡りデッキを渡ろうとしたと際に下りの階段で足を踏み外した。	41	1000~9999
6	14~15	被災者は第一製鋼工場、一連続鑄造ラインモールドの銅板調整作業に、同僚3名と従事していた。被災者は、銅板調整のため、専用スパナで調整ナットを締め込む作業を開始した。専用スパナを調整ナットに掛け、引き上げるように締め込んだ際、専用スパナが調整ナットから抜け、被災者は後ろに転倒し、右足大腿部を設備架台に強打し負傷した。	65	1000~9999
6	16~17	作業場内で、現場から引き取ってきた荷物の荷降ろしをする際に、4tアームロールあおりより400mm程上がっている荷物の上に乗る、レバーブロックを外したところ、板物の荷物が滑り、一緒に4tアームロールの荷台から地面に落下してしまった。	61	10~29
6	16~17	鉄鋼材の倉庫内で、厘木を片付ける為、高さ65cmの角鋼上を歩いている時、角19mm×長さ6m×132本を縛った結束番線の結束部が、高さ3.5cm出っ張っており、安全靴の先端が番線結束部に引っ掛かって転倒し、65cm下の通路地面へ落下し、左手を地面に着いた。	28	30~49

7	12~13	1製鋼3号転炉の炉修工事として足場板を設置するため、予め設置していた梯子を足場板を抱えて降りていた際に、足を踏み外して輻射部内を滑り転炉底まで墜落した。	27	10~ 29
12	13~14	環境職場執務室内にて大掃除中に、粉塵監視用モニター台の天板を水拭きするため安全靴を脱いで丸椅子に上がり、モニター台に足をかけたところ、台が傾き後ろ向きに転倒し、後頭部を強打した。	54	1000 ~ 9999

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html